

1 環境モニタリングの概要

女川原子力発電所環境放射能測定基本計画及び同実施計画に基づき、平成28年度に実施した環境モニタリングの概要は、以下のとおりである。

(1) 調査実施期間

平成28年4月から平成29年3月まで

(2) 調査担当機関

	調査担当機関
宮城県	環境放射線監視センター
東北電力㈱	女川原子力発電所

(3) 調査項目

東北電力㈱女川原子力発電所から周辺地域への予期しない放射性物質の放出を監視するため、周辺7か所に設置したモニタリングステーションで空間ガンマ線線量率を、また発電所放水口付近3か所に設置した放水口モニターで海水（放水）中の全ガンマ線計数率を、それぞれ連続で測定した。

また、全壊したモニタリングステーションの代替として周辺5か所に設置した放射線測定器（可搬型モニタリングポスト（可搬MP））においても空間ガンマ線線量率を測定した。

さらに、周辺地域における放射性降下物の状況のほか、人工放射性核種の放射能濃度の推移を把握し、同発電所の運転に伴う環境への放射能の影響の有無を評価するため、各種環境試料について核種分析を行った。

なお、一部の試料については、震災の影響で採取できず、代替地点で採取した。表-1に平成28年度の調査実績を示す。

表一 平成28年度調査実績

調査対象	検出器及び試料名		宮城県		東北電力		合計		
			地点数	測定頻度 または 試料数	地点数	測定頻度 または 試料数	地点数	測定頻度 または 試料数	
空間ガンマ線	線量率	モニタリングステーション(MS) NaI ^{*1}	3 ^{*2}	連続	4	連続	7	連続	
		電離箱	3 ^{*2}	連続	4	連続	7	連続	
		代替地点 NaI	5	連続			5	連続	
		広域MS 電離箱	10	連続			10	連続	
		移動観測車 NaI	24	4回	17	4回	41	各4回	
		積算線量 RPLD ^{*3}	15 ^{*4}	4回	13	4回	28	各4回	
海水(放水)中の全ガンマ線計数率		NaI			3	連続	3	連続	
降下物		月間	2	24	2	24	4	48	
		四半期間	3 ^{*5}	12	2	8	5	20	
環境放射能	陸上試料	農産物	1 ^{*4}	2	2	3	3	5	
		陸水	2	4	1	4	3	8	
		陸土	2	2	1	1	3	3	
		浮遊じん	2 ^{*4}	24	4	32	6	56	
		指標植物	2	2	4 ^{*6}	9	6	11	
	海洋試料	魚介類	7 ^{*4}	7	4 ^{*4}	6	11	13	
		海藻	2	2	1	2	3	4	
		海水(共沈法)	3	5	2	8	5	13	
		海水(迅速法) ^{*7}	(1)	6	(1)	6	(2)	12	
		海底土	3	5	2	8	5	13	
		指標海産物	4	14	4	13 ^{*8}	8	27	
		指標海産物(迅速法) ^{*7}	(3)	12	(3)	11 ^{*8}	(6)	23	
	降下物及び環境試料数合計			33	121	29	135	62	256

- *1 下方を鉛で遮へいしている。
 なお、女川局、小屋取局及び寄磯局は平成28年6月10日から、寺間局及び江島局は平成29年3月22日から、塚浜局及び前網局は平成29年3月23日から鉛遮へいを取り外している。
- *2 震災により全壊した4局(飯子浜局、鮫浦局、谷川局、小積局)は欠測している。
- *3 RPLDは蛍光ガラス線量計のことをいう。
- *4 震災の影響により一部代替地点で実施した。代替地点がない地点は欠測とした。
- *5 震災の影響により代替地点で実施した。
- *6 ヨモギについては、計画した採取地点で採取できなかったため、代替地点で採取した。
- *7 迅速法を合わせて実施している場合は、迅速法の地点数をカッコ書きとし、地点数合計に含めない。
- *8 アラメの1試料については、波が高い日が続き、採取ができなかったため欠測となった。

2 環境モニタリングの結果

平成28年度の環境モニタリングの結果、周辺7か所に設置したモニタリングステーションにおいて、東京電力㈱福島第一原子力発電所事故（以下「福島第一原発事故」という。）の影響により、それ以前と比較して空間ガンマ線線量率の値が高いレベルで推移していることが観測された。

一方、発電所放水口付近3か所に設置した放水口モニターの海水（放水）中の全ガンマ線計数率に異常な値は検出されなかった。

環境試料から検出された人工放射性核種は、対象核種であるCs（セシウム）-134、Cs-137、及び対象核種以外のSr（ストロンチウム）-90等であるが、これらの他に対象核種は検出されなかった。

以上の環境モニタリングの結果並びに女川原子力発電所の運転状況及び放射性廃棄物の管理状況から判断して、女川原子力発電所に起因する環境への影響は認められず、検出された人工放射性核種は福島第一原発事故と過去の核実験の影響と考えられた。

(1) 原子力発電所からの予期しない放出の監視

イ モニタリングステーションにおけるNaI(Tl)検出器による空間ガンマ線線量率

原子力発電所からの予期せぬ放射性物質の放出を監視するため、周辺7か所のモニタリングステーションで、NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線線量率を連続で測定した。その結果を表-2に示す。

多くの地点で福島第一原発事故前と比較して線量率が高いレベルで推移しているが、その原因は同事故の影響によるものと考えられ、女川原子力発電所に起因する線量率の異常な増加は認められなかった。

ロ 海水（放水）中の全ガンマ線計数率

放水口付近の3か所の放水口モニターで海水（放水）中の全ガンマ線計数率を連続で測定した。その結果を表-3に示す。

海水（放水）中の全ガンマ線計数率の変動は降水及び海象条件他の要因による天然放射性核種の濃度の変動によるものであり、女川原子力発電所に起因する計数率の異常な増加は認められなかった。

表-2 (1) NaI(Tl)検出器^{#1}による空間ガンマ線線量率測定結果

単位: nGy/h

調査機関	局名	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	H28年度測定値	H21~H22年度測定値(参考) ^{#2}	H26~H27年度測定値(参考) ^{#3}
宮城県	女川	平均値	13.3	13.2	13.0/34.8	33.9	34.0	34.1	34.3	34.8	34.3	34.2	33.7	33.8	13.2/34.2	11.6	14.0
		標準偏差	1.0	1.0	0.5/3.7	2.0	2.2	2.3	2.3	2.5	2.3	2.0	1.4	1.7	1.0/2.3	2.4	1.2
		最大値	19.2	20.3	16.3/59.8	50.0	55.1	50.3	55.0	60.8	60.8	54.7	51.9	44.2	46.5	20.3/60.8	24.6
宮城県	小屋取	平均値	12.1	12.1	12.2/31.8	31.8	31.6	31.9	32.3	32.7	31.9	31.9	32.1	31.8	12.1/31.6	9.8	12.1
		標準偏差	25.4	24.8	25.0/55.9	55.1	55.5	54.3	55.4	55.9	56.0	56.2	56.1	56.1	25.1/55.6	19.4	27.1
		最大値	36.9	33.4	28.3/78.2	68.1	75.0	74.0	77.1	79.7	75.5	72.9	69.1	66.8	36.9/79.7	36.6	54.1
宮城県	寄磯	平均値	23.9	23.3	24.2/52.5	52.6	52.5	51.0	52.8	53.6	53.4	54.2	53.8	53.4	23.3/51.0	16.9	23.8
		標準偏差	19.1	18.8	18.6/46.4	45.7	46.1	46.0	46.2	46.5	46.2	46.0	45.8	45.8	18.9/46.1	13.6	20.4
		最大値	36.9	33.4	28.3/78.2	68.1	75.0	74.0	77.1	79.7	75.5	72.9	69.1	66.8	36.9/79.7	36.6	54.1
東北電力	塚	平均値	19.1	18.8	18.0/43.7	43.9	43.8	43.6	44.2	44.4	44.1	44.3	44.4	43.6	17.7/43.6	11.8	18.1
		標準偏差	21.2	20.8	21.0	20.4	20.6	20.2	20.7	20.9	20.9	20.6	20.6	20.5	20.5/52.5	15.5	23.2
		最大値	36.9	33.4	28.3/78.2	68.1	75.0	74.0	77.1	79.7	75.5	72.9	69.1	66.8	36.9/79.7	36.6	54.1
東北電力	寺間	平均値	13.4	13.2	13.2	12.8	12.9	13.2	13.8	14.0	13.9	13.8	13.7	13.7	13.7/40.9	13.7	17.6
		標準偏差	1.0	0.9	1.3	0.8	1.0	1.2	1.0	1.0	1.1	1.1	0.7	0.6	0.5/1.3	1.0	2.3
		最大値	19.9	19.4	23.3	21.9	24.5	22.6	22.8	22.8	25.8	22.8	20.4	18.8	17.9/51.5	27.7	35.1
東北電力	江島	平均値	12.4	12.1	12.0	11.8	11.6	11.8	12.7	12.7	12.8	12.7	12.9	12.9	12.7/39.3	12.2	12.2
		標準偏差	10.5	10.2	10.2	9.8	9.9	10.0	10.3	10.5	10.5	10.5	10.4	10.4	10.4/34.8	11.4	11.9
		最大値	17.3	15.4	18.6	16.8	16.6	17.3	19.0	22.8	18.8	18.8	15.5	15.1	13.9/39.9	27.2	36.6
東北電力	前網	平均値	9.5	9.2	9.0	9.0	8.8	8.8	9.3	9.5	9.4	9.5	9.6	9.5	8.8/33.6	9.9	9.0
		標準偏差	25.4	25.0	24.8	24.3	24.4	24.4	25.3	25.6	25.6	25.5	25.6	25.6	25.7/61.4	21.1	30.0
		最大値	32.8	31.2	33.6	29.8	33.0	32.4	34.5	35.0	33.4	33.4	31.1	30.5	30.0/67.7	37.6	51.1
東北電力	前網	平均値	24.1	23.7	23.2	23.2	22.9	23.1	23.7	24.3	24.3	24.5	24.7	24.7	22.9/59.7	19.0	24.5
		標準偏差	1.1	0.9	1.2	0.6	0.9	1.1	1.0	1.0	0.9	1.0	0.6	0.6	0.6/1.1	1.1	2.5
		最大値	32.8	31.2	33.6	29.8	33.0	32.4	34.5	35.0	33.4	33.4	31.1	30.5	30.0/67.7	37.6	51.1

#1 下方を船で遮へいたNaI(Tl)検出器により測定した。なお、女川、小屋取及び寄磯局は6月10日から、寺間及び江島局は3月22日から、塚及び前網局は3月23日から

#2 鉛遮へいを取り外し後の測定値については、下線を付して示す。

#3 参考値は平成21年度及び平成22年度の2年間の10分値(福島第一原発事故前)に基づく統計値である。

#4 参考値は平成26年度及び平成27年度の2年間の10分値(福島第一原発事故後)に基づく統計値である。

(参考) 代替地点におけるNaI(Tl)検出器による空間ガンマ線線量率測定結果

単位：nGy/h

調査機関	局名	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	H28年度測定値	H26~H27年度測定値(参考)*	
宮	尾浦可搬MP	平均値	40.8	40.5	40.7	40.0	40.0	40.1	40.0	39.9	39.7	39.6	39.4	39.3	40.0	42.1	
		標準偏差	2.4	1.9	2.6	1.7	2.2	2.2	2.2	2.0	2.2	2.1	1.6	1.4	1.4	2.1	2.3
		最大値	55.5	52.7	62.7	56.1	66.3	54.1	58.2	58.2	63.0	58.6	54.3	51.8	48.9	66.3	90.0
宮	渡波可搬MP	平均値	37.6	37.3	36.6	37.1	36.8	36.4	36.9	36.7	36.7	36.7	36.7	36.6	36.4	36.4	34.8
		標準偏差	47.1	46.9	46.9	46.5	46.7	46.9	46.9	46.9	47.0	47.0	46.9	46.8	46.4	46.8	47.9
		最大値	1.3	1.3	1.6	1.1	1.1	1.2	1.3	1.3	1.2	1.3	1.1	1.0	1.0	1.2	1.4
城	塚浜可搬MP	平均値	56.3	53.7	59.2	55.8	54.4	55.2	58.0	56.5	57.1	57.5	54.5	52.5	52.5	59.2	72.9
		標準偏差	43.9	43.8	43.5	43.9	43.9	43.9	43.6	43.6	43.9	43.9	43.4	43.4	43.6	42.9	43.7
		最大値	45.3	44.7	43.3	42.0	42.0	42.1	42.5	42.8	42.8	42.4	42.1	42.1	42.2	42.8	47.0
城	塚浜可搬MP	平均値	3.4	2.7	3.6	1.7	2.4	3.0	2.7	2.7	2.8	1.8	1.6	1.8	1.8	2.8	3.1
		標準偏差	66.4	62.2	68.1	57.2	71.8	63.8	70.4	73.2	65.9	65.9	60.1	55.8	56.7	73.2	112.6
		最大値	40.7	40.6	38.7	38.7	37.9	38.4	38.8	39.0	39.2	39.2	38.9	38.9	39.1	37.9	38.0
大原可搬MP	大原可搬MP	平均値	46.2	45.8	45.9	45.2	45.3	45.4	45.5	45.5	45.7	45.8	45.7	45.6	45.6	45.6	46.9
		標準偏差	1.8	1.5	2.1	1.2	1.5	1.8	1.6	1.6	1.5	1.8	1.7	1.2	1.3	1.6	1.7
		最大値	60.2	56.7	62.2	52.4	57.3	60.3	60.0	60.0	59.1	60.5	63.5	53.5	54.2	63.5	69.5
大原可搬MP	大原可搬MP	平均値	42.1	42.2	41.9	41.9	41.2	41.3	41.9	42.4	42.4	42.6	42.8	42.5	42.0	41.2	41.6
		標準偏差	61.9	61.2	61.4	60.7	61.0	61.2	61.9	61.9	62.5	62.4	62.4	62.3	62.1	61.7	66.6
		最大値	2.7	2.1	3.0	1.6	2.0	2.4	2.4	2.4	2.3	2.7	1.8	1.6	1.6	2.3	4.5
大原可搬MP	大原可搬MP	平均値	81.6	76.6	84.5	71.8	77.6	80.5	82.8	85.5	87.1	87.1	82.1	73.3	70.0	87.1	104.8
		標準偏差	56.8	56.3	56.2	56.5	55.7	56.5	57.6	57.6	58.0	58.3	58.8	58.2	58.1	55.7	55.8
		最大値															

* 参考値は平成26年度及び平成27年度の2年間の10分値(福島第一原発事故後)に基づく統計値である。

表-3 海水（放水）中の全ガンマ線計数率測定結果

単位：c p m

調査機関	局名	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	H28年度測定値	H21～H22年度測定値(参考)*1	H26～H27年度測定値(参考)*2	
東北電力	1号機放水口モニタ- (A)	平均	274	269	264	256	262	253	257	269	274	284	278	275	269	250	277	
		標準偏差	16	14	15	10	20	9	8	8	14	11	17	13	12	17	19	19
		最大	441	391	365	358	365	324	297	297	388	369	376	351	353	441	559	710
	1号機放水口モニタ- (B)	平均	271	267	263	254	260	251	227	235	245	250	253	253	248	227	207	231
		標準偏差	15	14	15	9	19	8	27	9	14	11	17	13	12	15	19	17
		最大	414	382	358	349	357	301	306	306	361	377	363	332	342	414	498	668
2号機放水口モニタ-	平均	432	431	430	430	432	426	426	432	431	434	437	436	434	432	418	434	
	標準偏差	8	7	7	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7	8	8	8	
	最大	464	457	457	458	460	454	457	457	459	462	468	463	465	468	502	485	
3号機放水口モニタ-	平均	471	469	470	468	469	466	466	470	473	475	477	477	476	472	464	469	
	標準偏差	8	8	8	8	8	9	8	8	8	8	8	8	8	9	18	9	
	最大	500	503	502	496	495	492	496	496	501	504	503	506	508	508	565	622	
	最小	439	437	437	440	440	428	439	439	445	445	449	447	450	428	409	428	

*1 平成21年度及び平成22年度の2年間の2年間の10分値（福島第一原発事故前）に基づく統計値である。
 *2 平成26年度及び平成27年度の2年間の2年間の10分値（福島第一原発事故後）に基づく統計値である。

(2) 周辺環境の保全の確認

女川原子力発電所の周辺環境において、空間ガンマ線線量率等のレベル並びに放射性核種の濃度及び分布について調査した結果、同発電所の影響は認められなかった。

イ 電離箱検出器による空間ガンマ線線量率

図-1に、モニリングステーションにおける電離箱検出器による空間ガンマ線線量率の測定結果を示す。いずれの局においても福島第一原発事故前の測定値の範囲内であった。

ロ 放射性物質の降下量

降下物中の対象核種 (Mn-54、Co-58、Fe-59、Co-60、Cs-134、Cs-137) について分析した結果は表-4-1及び表-4-2に示すとおりである。分析の結果、人工放射性核種としては、対象核種であるCs-134及びCs-137が検出されたが、他の対象核種が検出されていないことや女川原子力発電所の運転状況及びCs-134とCs-137に係る測定値の関係から、福島第一原発事故の影響によるものと考えられる。

図-2に昭和61年度以降のCs-137に係る月間降下量及び図-5に福島第一原発事故後のCs-137に係る四半期間降下量について、それぞれの推移を示す。

ハ 環境試料の放射性核種濃度

人工放射性核種の分布状況や推移等を把握するため、降下物以外の種々の環境試料についても核種分析を実施した。

表-4-3に迅速法による海水及びアラメ中のI-131分析結果を示す。

前面海域のアラメの1試料からI-131が検出されたが、Cs-137等の対象核種の検出状況及び対照海域の試料との比較から女川原子力発電所由来のものではないと考えられる。

表-5に環境試料の核種分析結果の概要を示す(対照地点を除く)。

対象核種については、Cs-137が全ての対象物から検出された。ほとんどの試料が福島第一原発事故前の過去の測定値の範囲を超えているが、その原因は、福島第一原発事故の影響によるものと考えられる。また、Cs-134が一部の試料から検出されたが、これら以外の対象核種はいずれの試料からも検出されなかった。

そのほか、Sr-90については、陸土、指標植物、ワカメ、海水及びアラメから検出されたが、陸土以外は過去の測定値の範囲内であり、陸土は福島第一原発事故前における測定値の範囲を下回っていた。

H-3（トリチウム）については、陸水から検出されたが、過去の測定値の範囲内であった。

図-3及び図-4には、昭和56年度からの、図-6から図-28には、福島第一原発事故後の各種環境試料中における人工放射性核種濃度の推移を示した。

ニ 蛍光ガラス線量計による空間ガンマ線積算線量

周辺環境における空間ガンマ線の積算線量を把握するため、蛍光ガラス線量計（RPLD）による測定を実施した。

その結果を表-6に示す。年間積算値の最大値は福島第一原発事故前における測定値の範囲内であった。

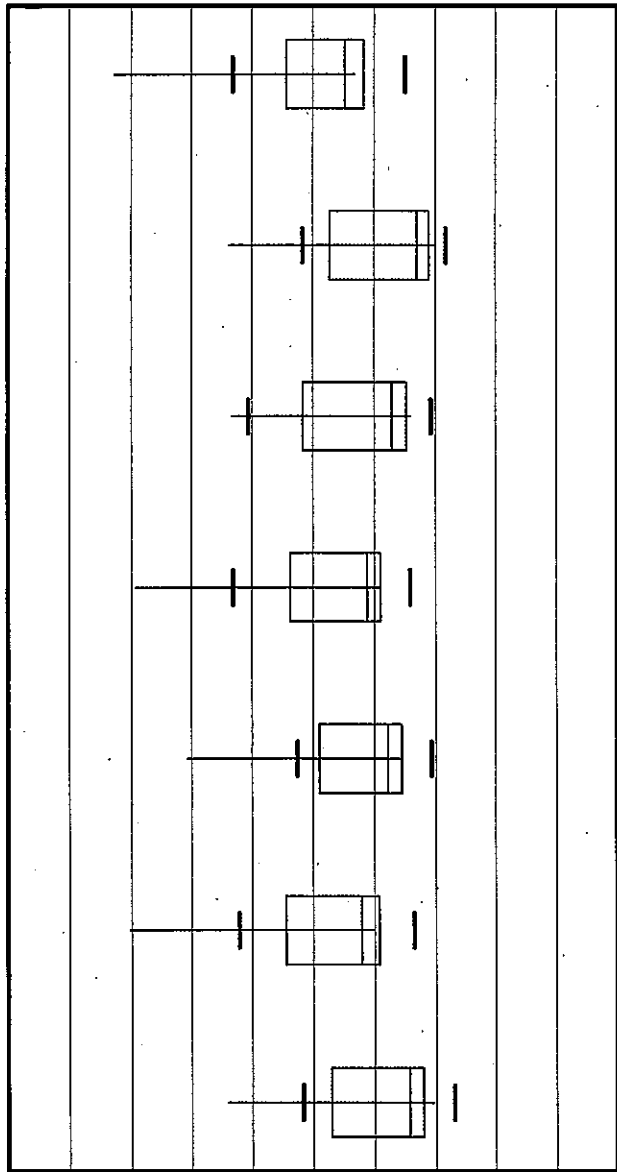
ホ 移動観測車による空間ガンマ線線量率

モニリングステーションが設置されていない地点における空間ガンマ線線量率を把握するため、NaI(Tl)検出器を搭載した移動観測車による測定を実施した。

その結果を表-7に示す。四半期毎の測定値の最大値が福島第一原発事故前における測定値の範囲を超えているが、これは、福島第一原発事故の影響によるものと考えられる。

nGy/h

凡例



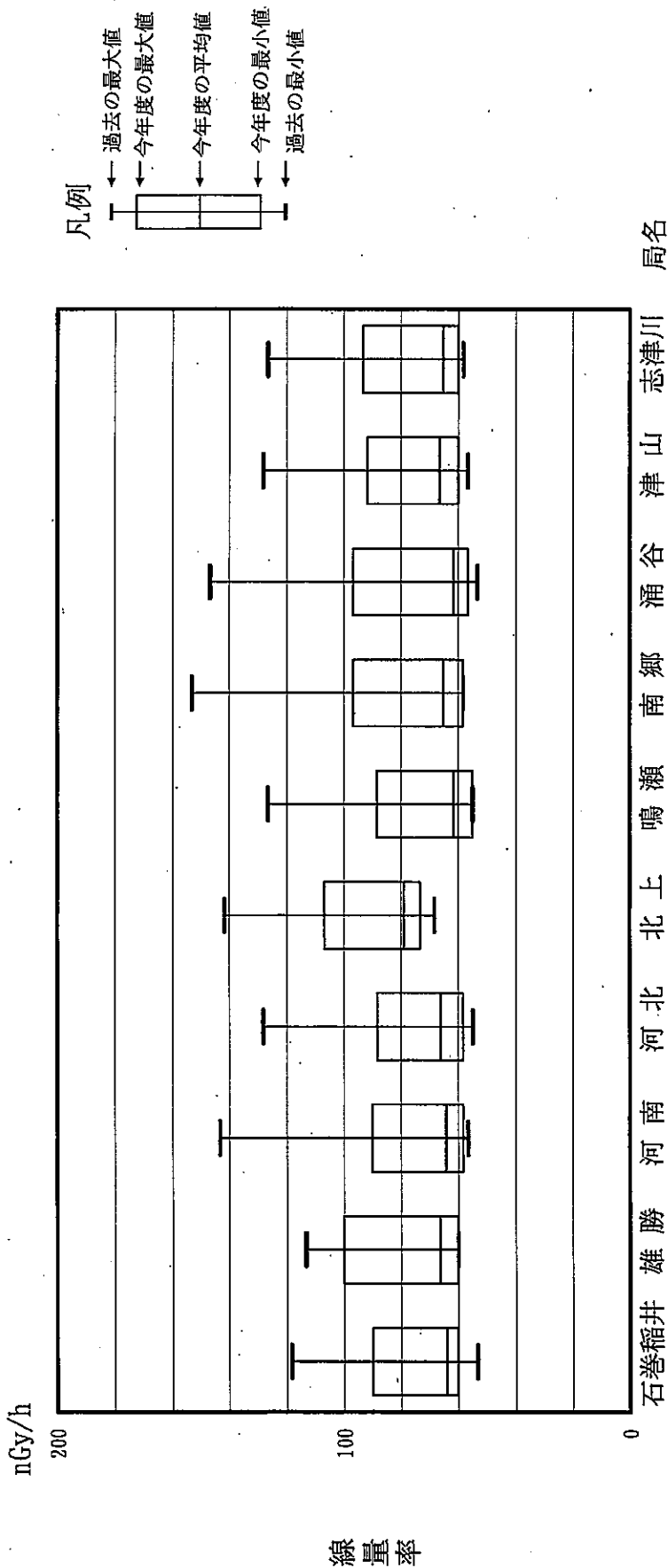
線量率

女川 小屋取 寄磯 塚浜 寺間 江島 前網 局名

図-1 電離箱検出器による空間ガンマ線線量率測定結果

- (注1) 過去の最大・最小値は、小屋取については昭和57年度から、女川、奇磯局については昭和58年度から、塚浜、寺間、江島、前網局については昭和59年度からの測定に基づく数値である。
- (注2) 震災の影響により全局測定を停止したが、女川、奇磯及び前網局は平成23年4月に、小屋取、塚浜局は同年5月に、寺間局は同年6月に、江島局は同年9月復旧した。

平成28年度



(参考) 広域モニタリングステーション*における電離箱検出器による空間ガンマ線線量率測定結果

* 原子力規制委員会「原子力災害対策指針」に示された「緊急時防護措置を準備する区域 (UPZ) 」内で県が平成25年度から運用を開始したモニタリングステーションをいう。

(注) 過去の最大・最小値は、平成25年度からの測定に基づく数値である。

平成28年度

表-4-1 月間降下物（雨水・ちり）中の放射性核種分析結果^{*1}

核種	平成28年度測定値 ^{*2}		前年度までの測定値 ^{*3}		単位
			(上段)平成2年度～平成23年2月 (下段)平成23年3月～平成27年度		
	試料数	最小値～最大値	試料数	最小値～最大値	
Mn-54	36	ND	749	ND	Bq/m ³
Co-58		ND		ND	
Fe-59		ND		ND	
Co-60		ND	174	ND	
Cs-134		ND～0.57		ND	
Cs-137		0.16～2.80	ND～9329	ND～0.14 0.19～9248	

*1 NDは検出されなかったことを示す。

*2 女川宿舎、小屋取及び牡鹿ゲートにおける測定値を表示した。対照地点（環境放射線監視センター）は含まない。

*3 女川宿舎、旧原子力センター、小屋取及び牡鹿ゲートにおける測定値を福島第一原発事故の前後に分けて表示した。仙台市内の対照地点（保健環境センター及び原子力センター）は含まない。

表-4-2 四半期間降下物（雨水・ちり）中の放射性核種分析結果^{*1}

核種	平成28年度測定値 ^{*2}		前年度までの測定値 ^{*3}		単位
			(上段)平成11年度～平成22年12月 (下段)平成23年1月～平成27年度		
	試料数	最小値～最大値	試料数	最小値～最大値	
Mn-54	20	ND	231	ND	Bq/m ³
Co-58		ND		ND	
Fe-59		ND		ND	
Co-60		ND	78	ND	
Cs-134		ND～1.01		ND	
Cs-137		0.43～6.2	0.26～8615	ND～0.20 1.05～8438	

*1 NDは検出されなかったことを示す。

*2 尾浦、渡波、大原、塚浜及び付替県道における測定値を表示した。

*3 鮫浦、飯子浜、谷川、塚浜及び付替県道における測定値を福島第一原発事故の前後に分けて表示した。

表-4-3 迅速法による海水及びアラメ中のI-131分析結果^{*1}

試料名	採取海域	平成28年度測定値		(参考)過去の測定値範囲 ^{*2}		単位
				(上段)平成18年度～平成22年度 (下段)平成23年度～平成27年度		
		試料数	最小値～最大値	試料数	最小値～最大値	
海水	放水口付近	12	ND	31	ND	mBq/L
				56	ND	
アラメ	放水口付近	4	ND	52	ND～0.30	Bq/kg 生
	前面海域	4	ND～0.10	17	ND	
				24	ND～0.13	
	周辺海域 ^{*3}	3	ND	20	ND～1.34	
対照海域	12	ND～0.27	20	ND～0.13		
			62	ND～0.11		
				51	ND～0.47 ND～0.41	

*1 NDは検出されなかったことを示す。

*2 参考として海水については平成20～27年度の測定値範囲を、アラメについては平成18年7月から平成27年度までに測定基本計画及び追加調査計画に基づき採取した試料の迅速法による測定結果のうち、今年度と同採取地点における測定結果を福島第一原発事故の前後に分けて表示した。

*3 周辺海域のアラメについては、波が高い日が続き、採取ができなかったため1試料欠測となった。

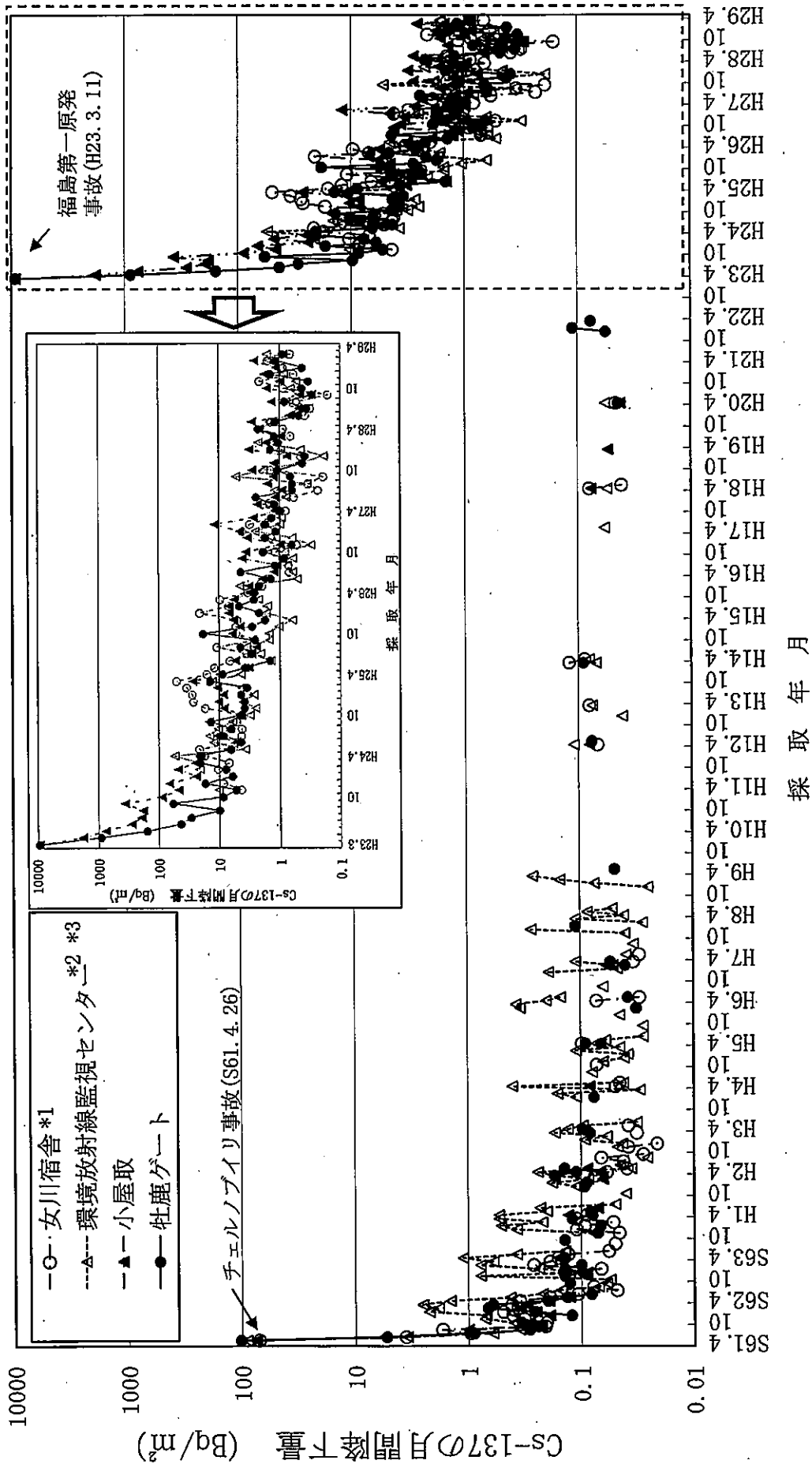


図-2 Cs(セシウム)-137の月間降下量の推移

(注) 検出下限値 (約0.03~0.04 Bq/m²) 以上の値を示す。

*1 平成23年8月から、採取地点を女川町女川浜の原子力センターから同町浦宿浜の県職員宿舎に変更した。

*2 平成9年4月から、保健環境センターにおける採取場所を、建物屋上から前庭地上へ変更した。

*3 平成27年3月30日から、採取地点を仙台市宮城野区安養寺の原子力センターから同区幸町の環境放射線監視センターに変更した。

表-5 環境試料の核種分析結果*1

対象物	試料名	核種	平成28年度測定値			前年度までの測定値*2			単位		
			試料数	最小値	～	最大値	平成22年度～平成23年度			平成27年度～平成28年度	
							最小値	～		最大値	最小値
農産物	精米	Sr-90	1 *3	ND			ND ~ 0.0089 *5		ND		Bq/kg生
		Cs-137	1 *3	0.112			ND ~ 0.035 *5		0.059 ~ 0.214		
	大葉根	Cs-137	2 *3	0.047 ~ 0.158			ND ~ 0.085		0.034 ~ 1.11		Bq/kg生
		Cs-137	2 *3	ND ~ 0.015			ND ~ 0.015		ND ~ 0.588		
陸水	水道原水(飲料水)	H-3	6	ND ~ 450			ND ~ 3200		ND ~ 610		mBq/L
		Cs-137	8	ND ~ 3.2			ND		ND ~ 282		
陸土	未耕土	Sr-90	1	1.1			1.3 ~ 1.6 *6		1.5 ~ 2.6		Bq/kg乾土
		Cs-137	2	32.8 ~ 199			ND ~ 13.1 *6		62.9 ~ 310		
浮遊じん	浮遊じん	Cs-137	56	ND ~ 0.0088			ND		ND ~ 23.70		mBq/m ³
指標植物	ヨモギ	Sr-90	2	0.13 ~ 0.17			0.065 ~ 1.00		0.029 ~ 0.54		Bq/kg生
		Cs-137	2	0.78 ~ 2.64			ND ~ 0.17		1.38 ~ 40.1		
	松葉	Sr-90	1	1.13			0.86 ~ 1.83		0.91 ~ 2.10		Bq/kg生
		Cs-137	8	1.03 ~ 2.33			ND ~ 0.74		1.38 ~ 1476		
魚介類	アイナメ	Sr-90	2	ND			ND ~ 0.011		ND		Bq/kg生
		Cs-137	3	0.19 ~ 0.21			0.062 ~ 0.21		0.169 ~ 10.16		
	カキ	Sr-90	2 *3	ND			ND		ND ~ 0.034		Bq/kg生
		Cs-137	4 *3	ND ~ 0.10			ND ~ 0.058		ND ~ 1.13		
	ホヤ	Sr-90	2 *3	ND			ND		ND		Bq/kg生
		Cs-137	3 *3	0.055 ~ 0.25			ND ~ 0.054		ND ~ 0.74		
	アワビ	Cs-137	1	0.082			ND ~ 0.053		ND ~ 0.22		Bq/kg生
ウニ	Cs-137	1	0.121			ND ~ 0.063 *7		0.086 ~ 1.66		Bq/kg生	
海藻	ワカメ	Sr-90	2	0.028 ~ 0.036			ND ~ 0.081		ND ~ 0.056		Bq/kg生
		Cs-137	4	ND ~ 0.15			ND ~ 0.080		ND ~ 2.39		
海水	表層水	H-3	6	ND			ND ~ 670		ND		mBq/L
		Sr-90	1	2.7			ND ~ 2.9		1.7 ~ 3.6		
		Cs-137	12	ND ~ 4.2			ND ~ 4.1		ND ~ 98		
海底土	表層土(砂)	Sr-90	1	ND			ND		ND		Bq/kg乾土
		Cs-137	12	ND ~ 47.2			ND ~ 2.6		ND ~ 299		
指標海産物	アラメ	Sr-90	3	ND ~ 0.040			ND ~ 0.073		ND ~ 0.042		Bq/kg生
		Cs-137	11 *4	ND ~ 0.11			ND ~ 0.16		ND ~ 12.76		
	ムラサキイガイ	Sr-90	1	ND			ND		ND		Bq/kg生
		Cs-137	4	0.047 ~ 0.10			ND ~ 0.096		0.030 ~ 0.54		

*1 この表にはCs-137、Sr-90及びH-3のみを示し、対照地点における値及び迅速法による海水及びアラメの値は含まない。
また、NDは検出されなかったことを示す。

*2 福島第一原発事故の前後に分けて示す。

*3 震災の影響により一部代替地点で実施した。代替地点がない地点は欠測とした。

*4 アラメについては、波が高い日が続き、採取ができなかったため1試料欠測となった。

*5 平成11年度からの測定基本計画変更によって測定地点が谷川1地点となったため、精米の平成2～22年度の測定値範囲は谷川における値を示す。

*6 平成21～22年度の測定値を表示した。

*7 平成11～22年度の測定値を表示した。

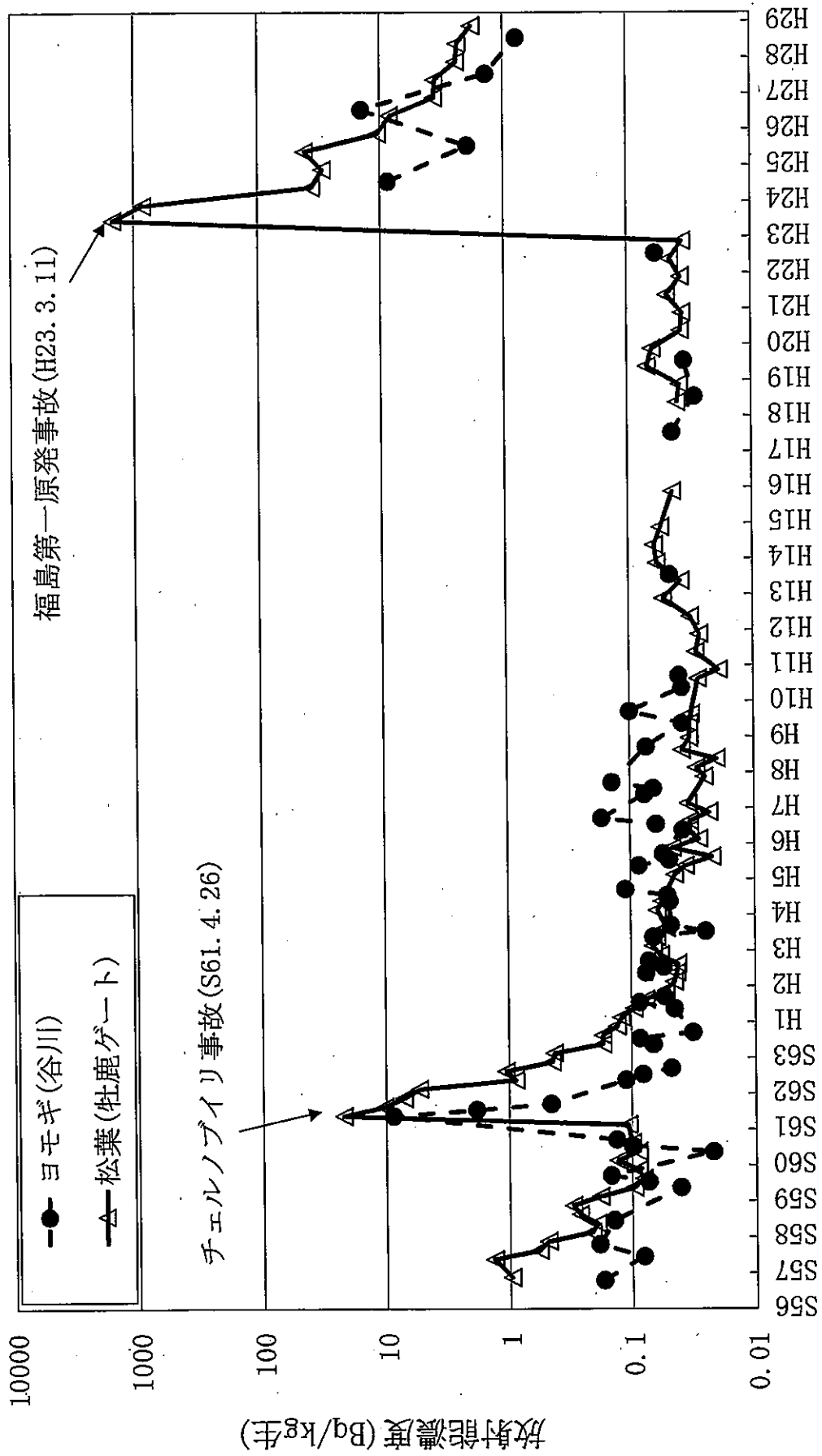


図-3 陸上試料中のセシウム-137濃度の推移

(注) 検出下限値以上の値を表示した。

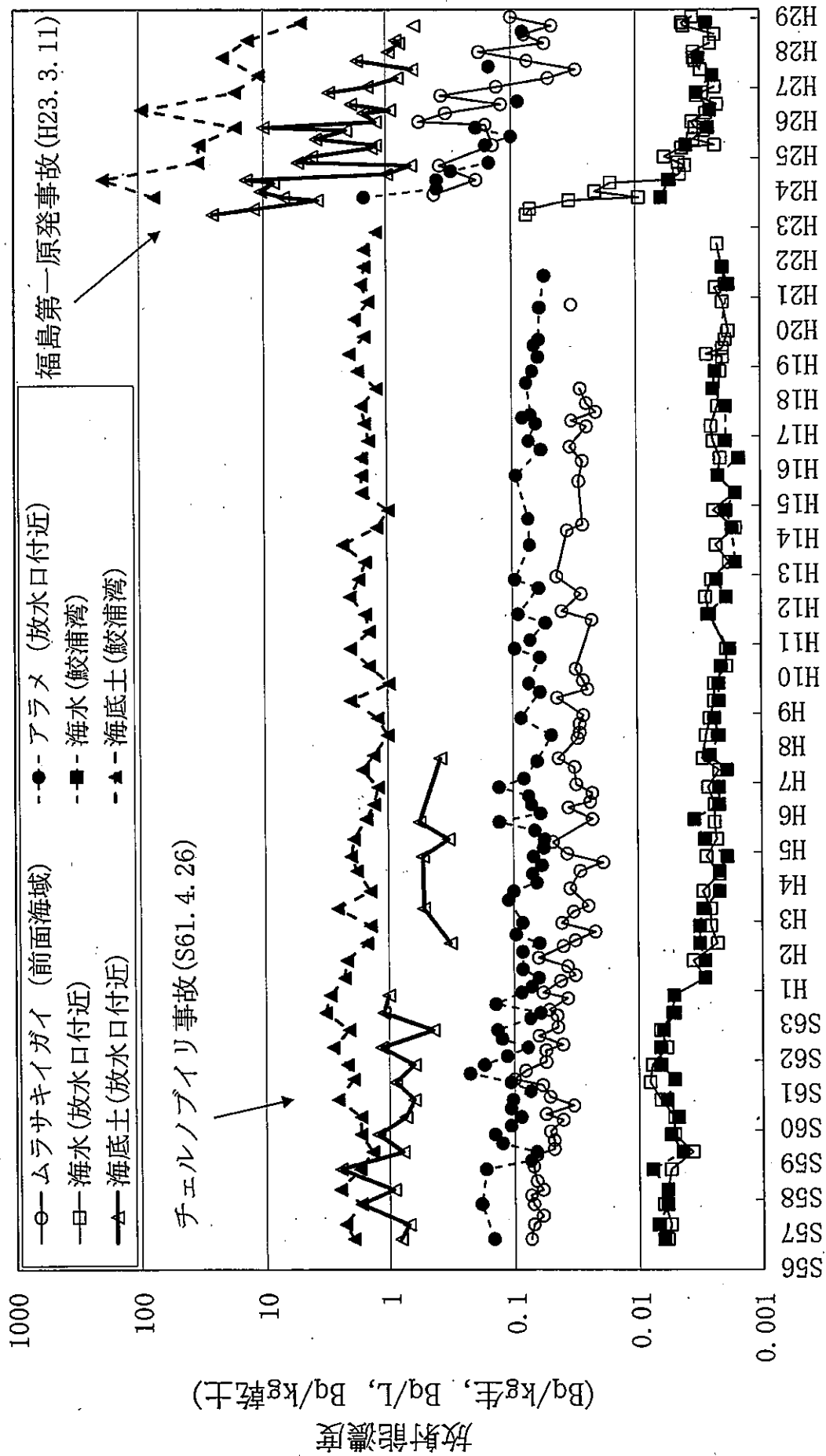


図-4 海洋試料中のセシウム-137濃度推移

(注) 検出下限値以上の値を表示した。

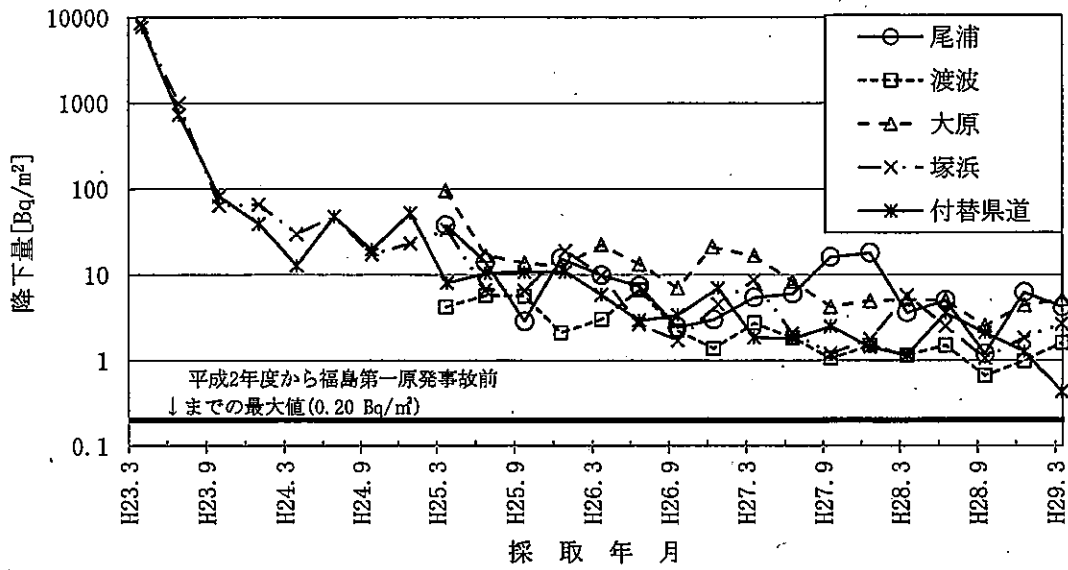


図-5 四半期間降下物（雨水・ちり）のCs-137降下量の推移

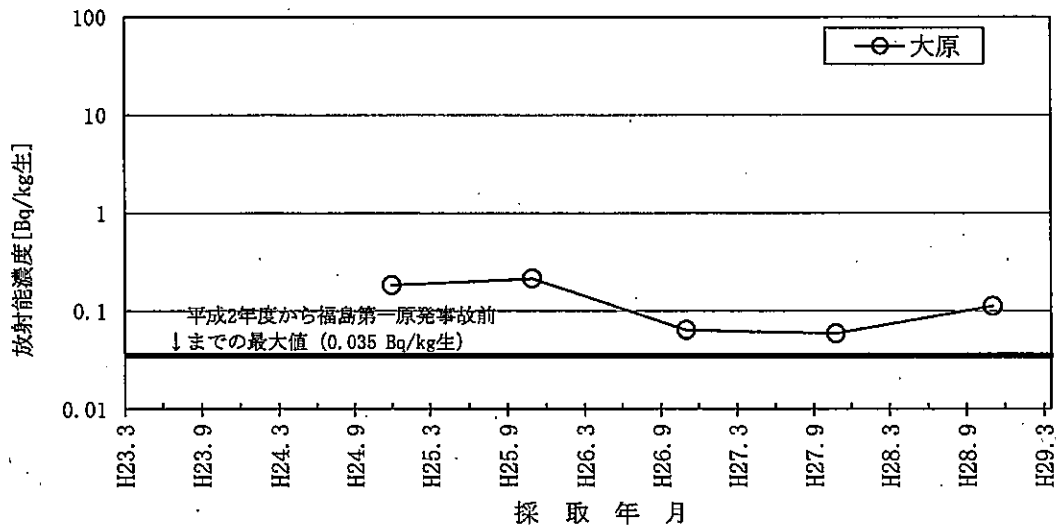


図-6 精米のCs-137濃度の推移

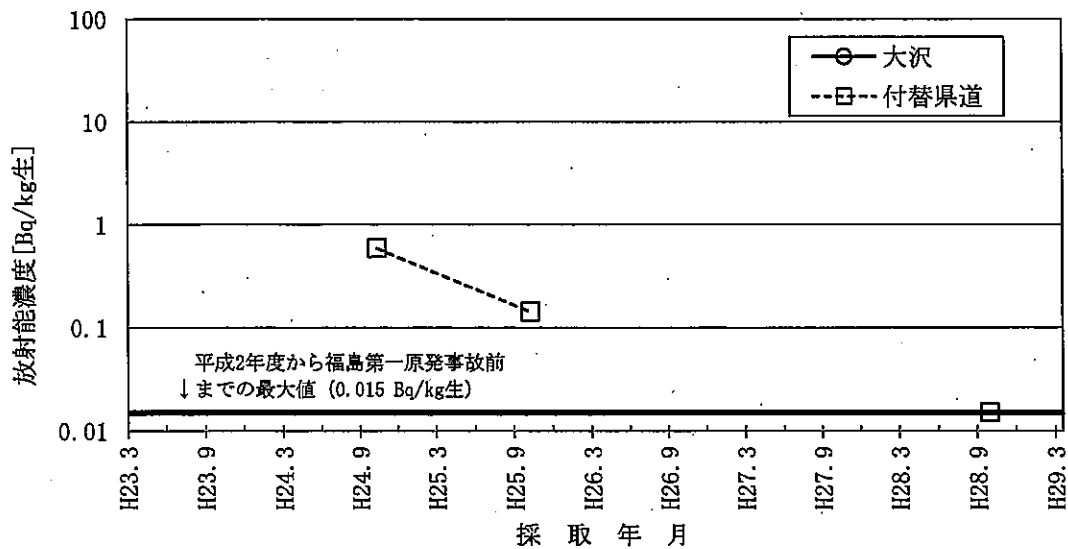


図-7 大根（根）のCs-137濃度の推移

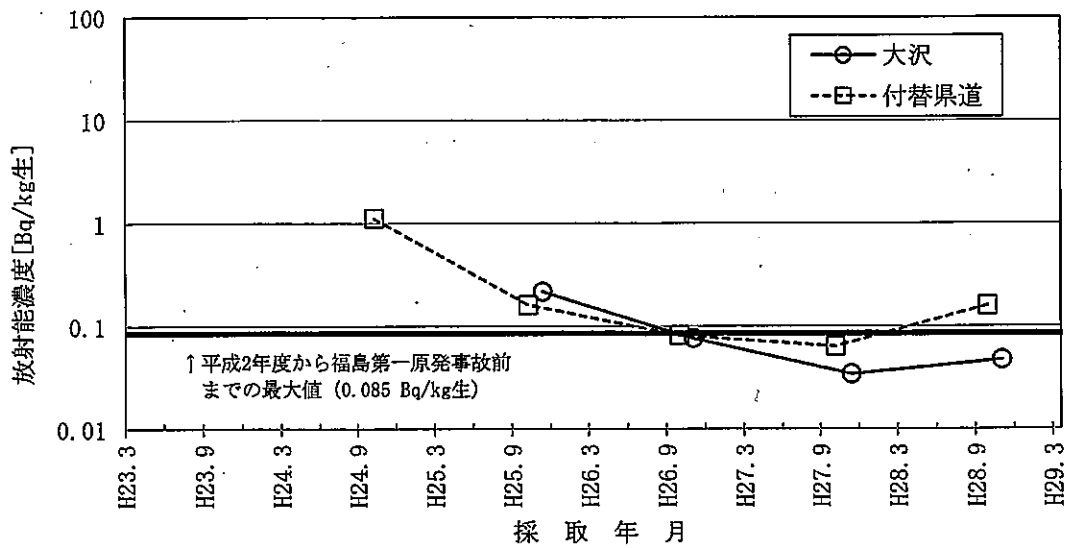


図-8 大根(葉)のCs-137濃度の推移

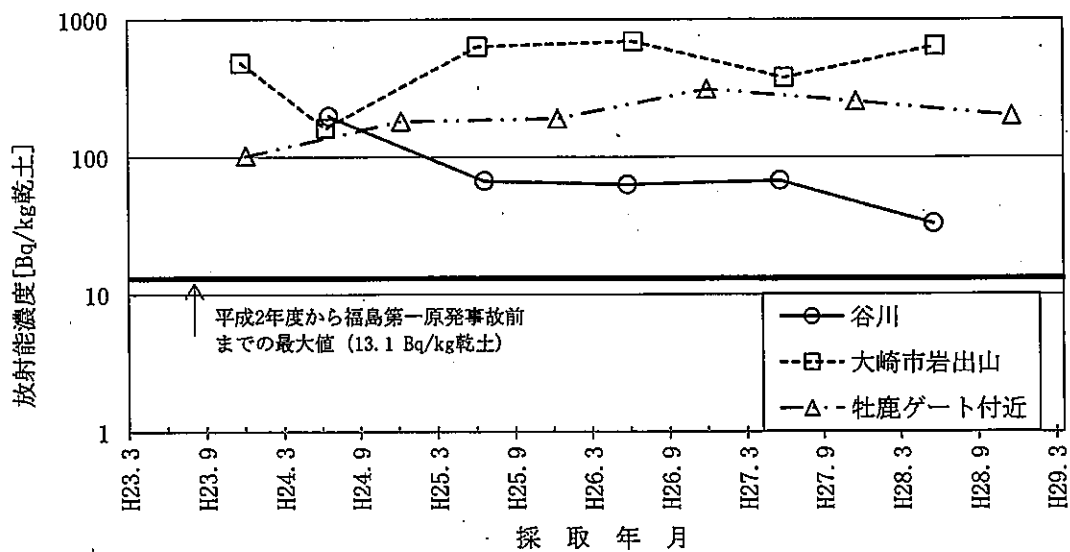


図-9 陸土のCs-137濃度の推移

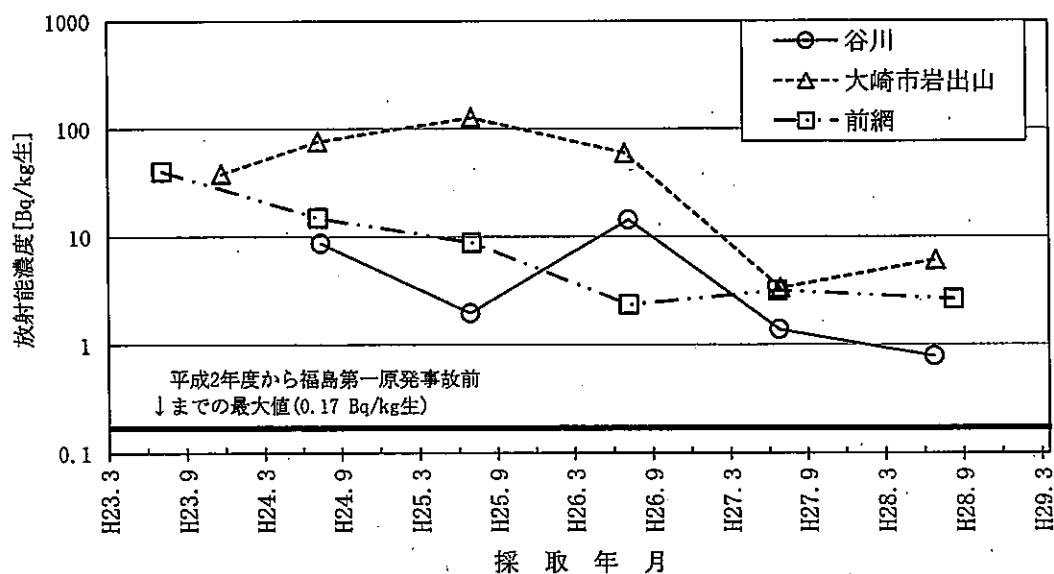


図-10 稲のCs-137濃度の推移

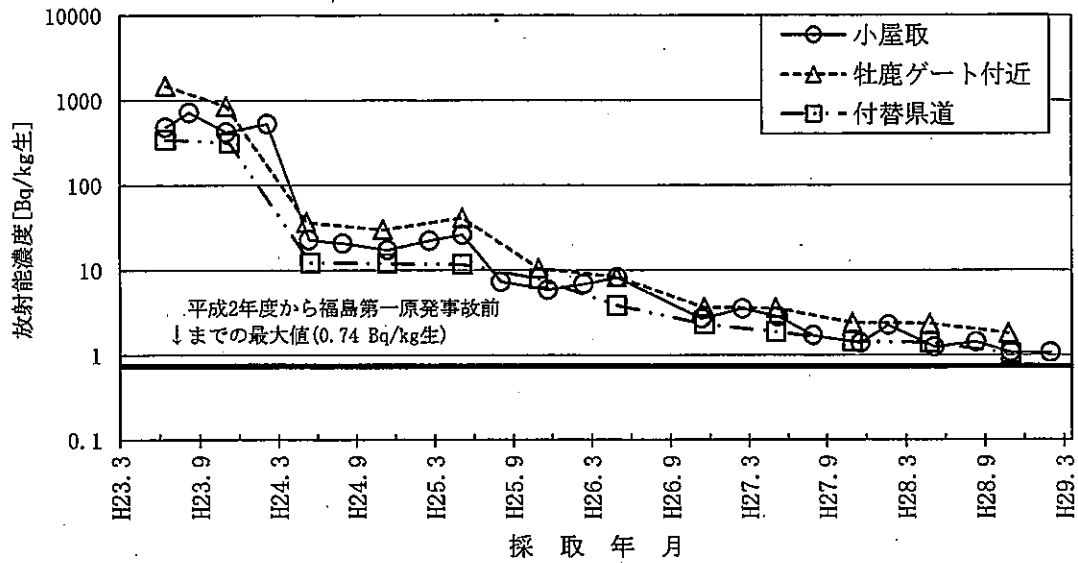


図-1.1 松葉のCs-137濃度の推移

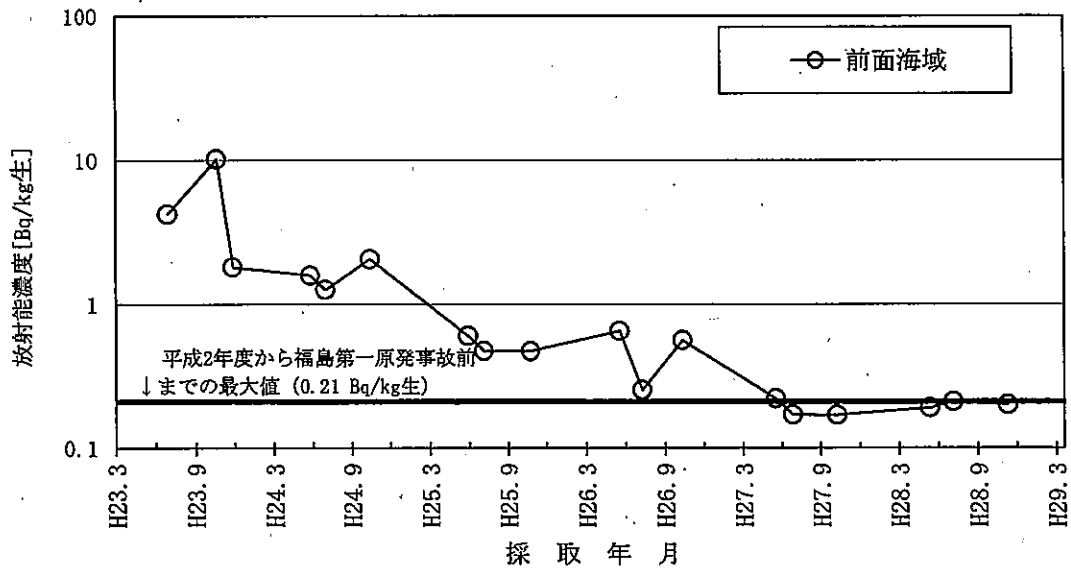


図-1.2 アイナメのCs-137濃度の推移

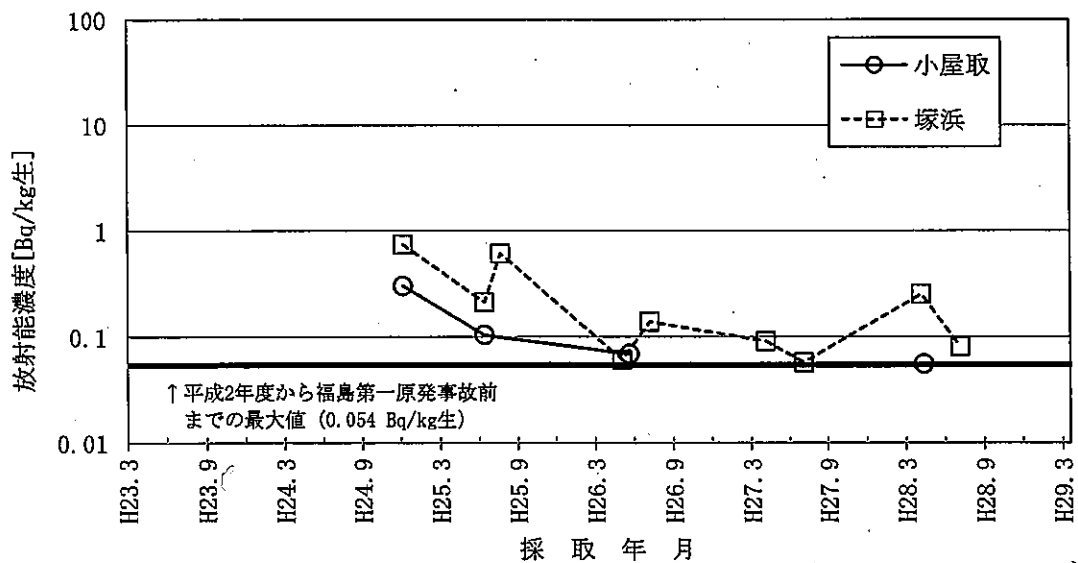


図-1.3 ホヤのCs-137濃度の推移

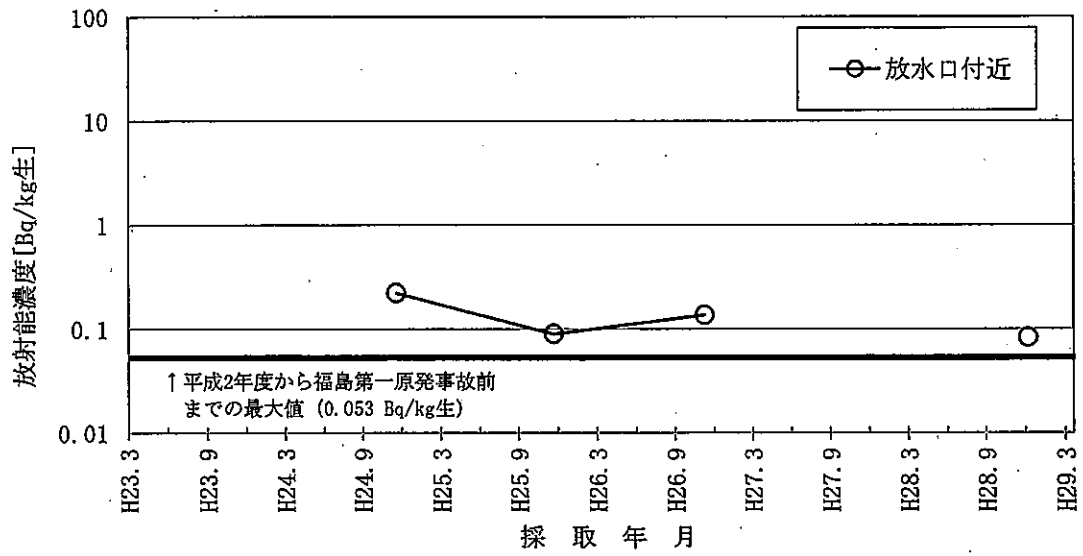


図-14 アワビのCs-137濃度の推移

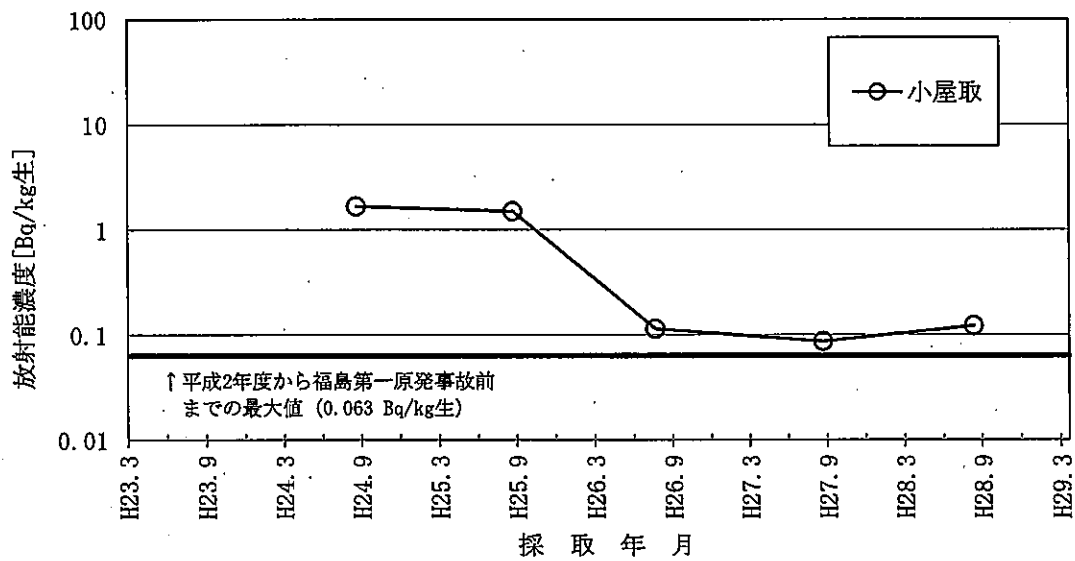


図-15 ウニのCs-137濃度の推移

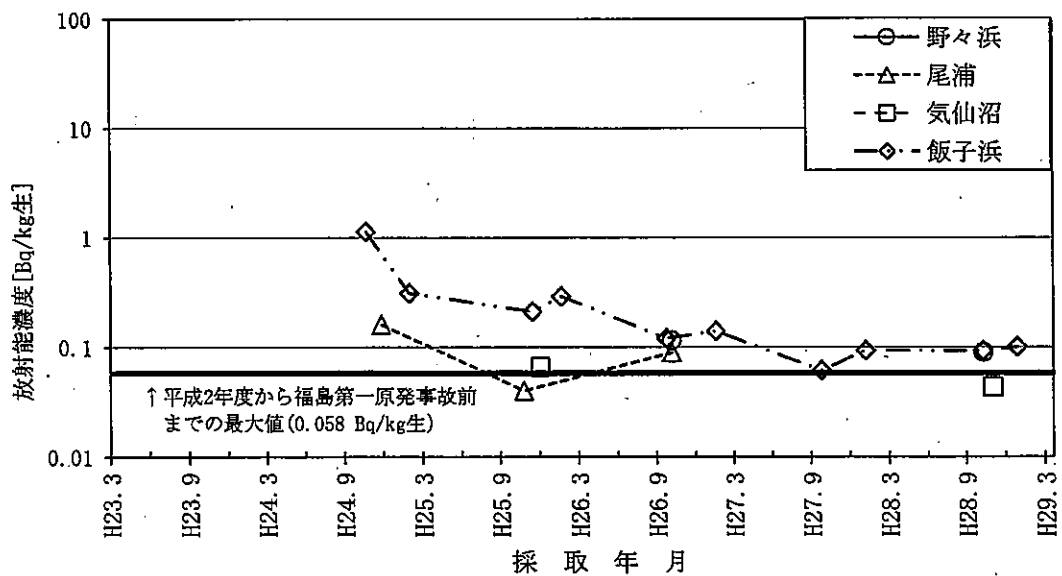


図-16 カキのCs-137濃度の推移

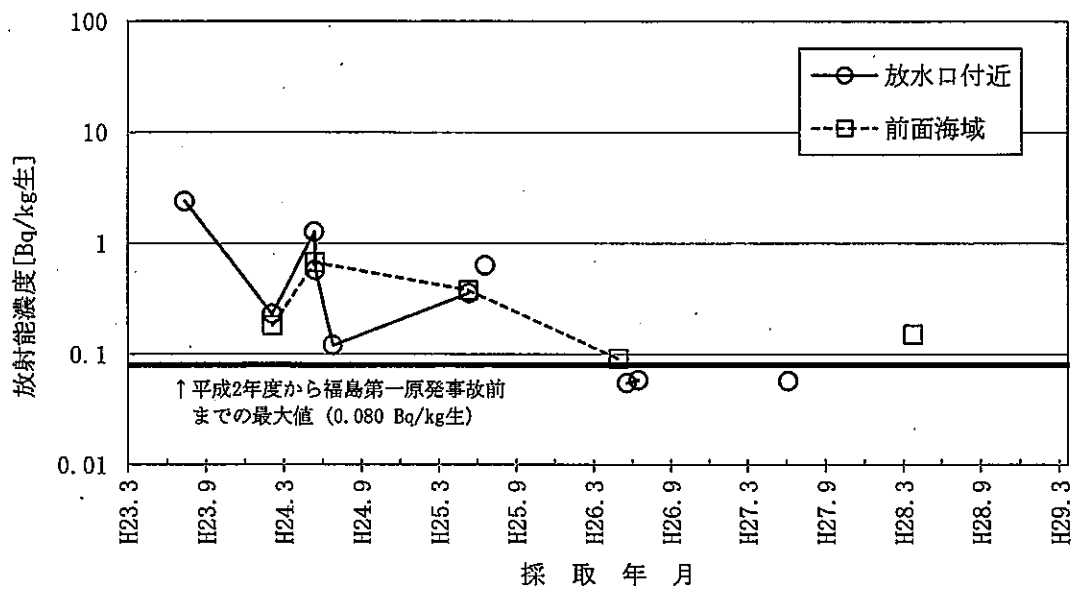


図-17 ワカメのCs-137濃度の推移

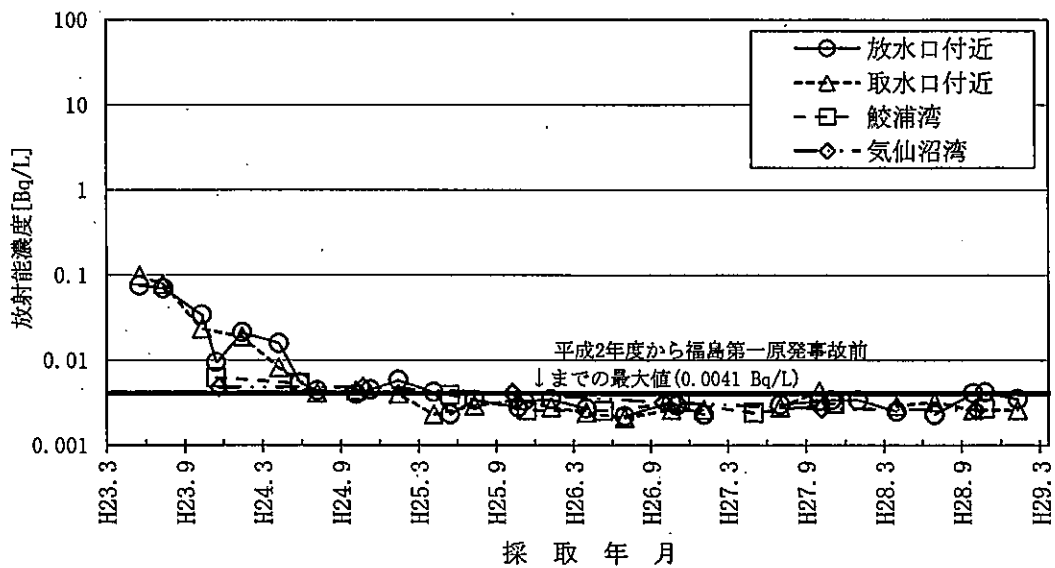


図-18 海水のCs-137濃度の推移

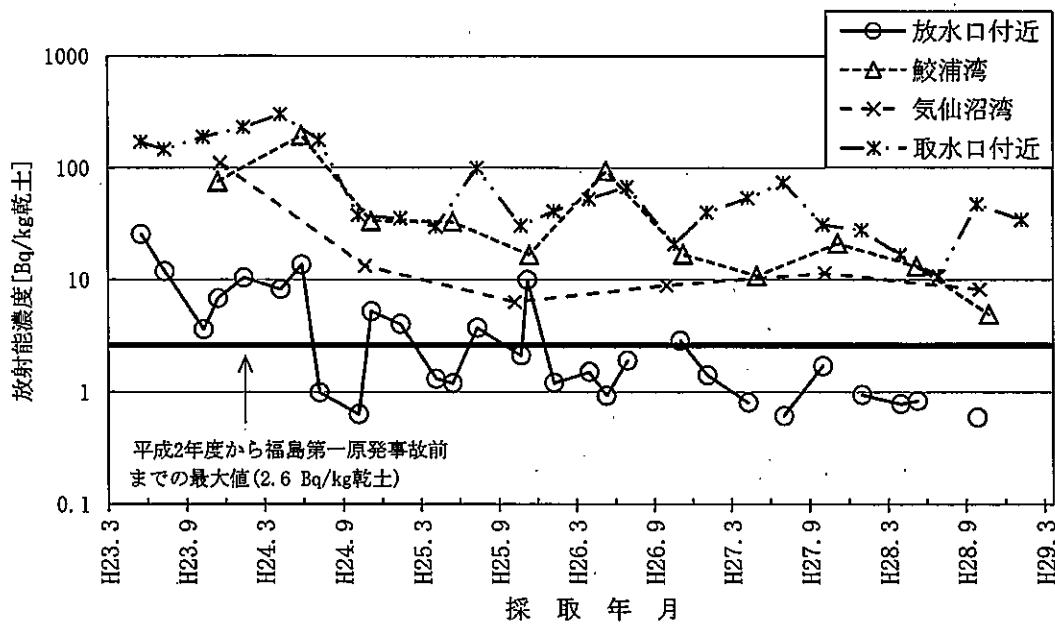


図-19 海底土のCs-137濃度の推移

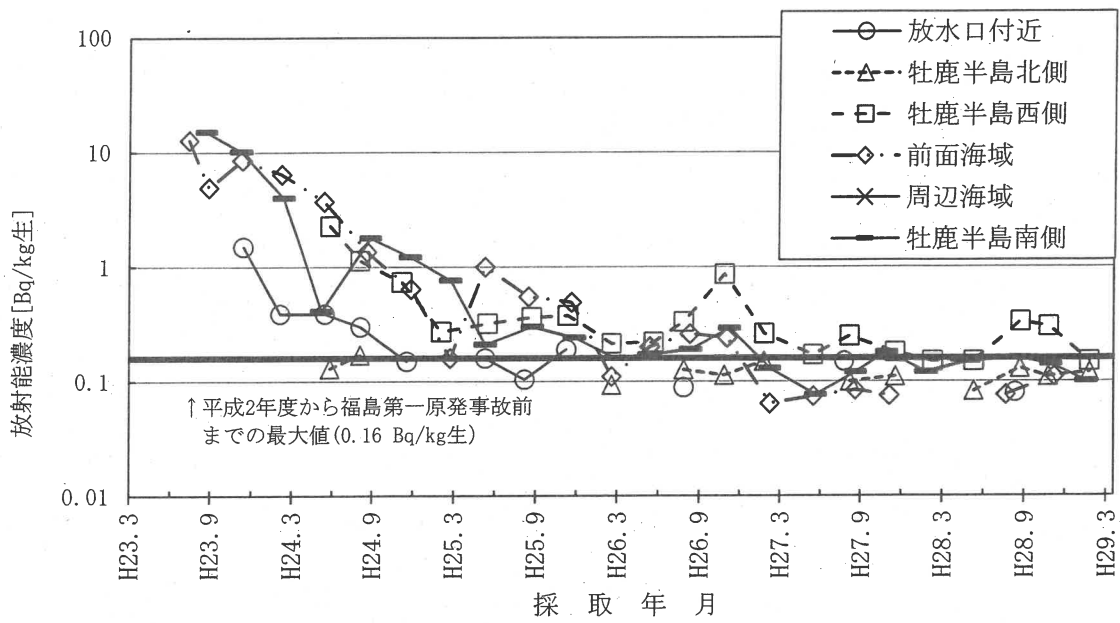


図-20 アラメのCs-137濃度の推移

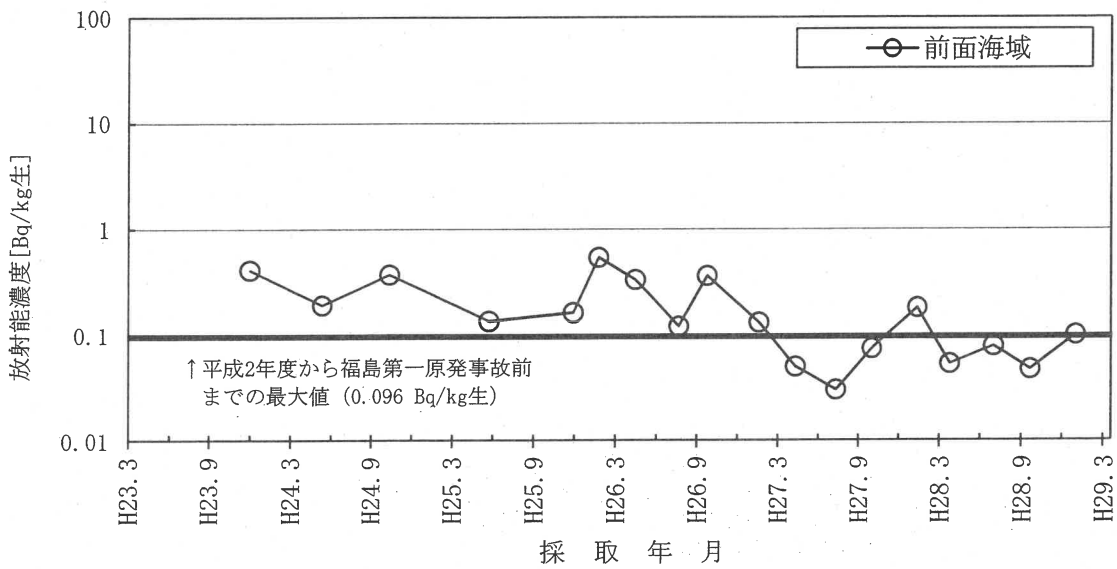


図-21 ムラサキイガイのCs-137濃度の推移

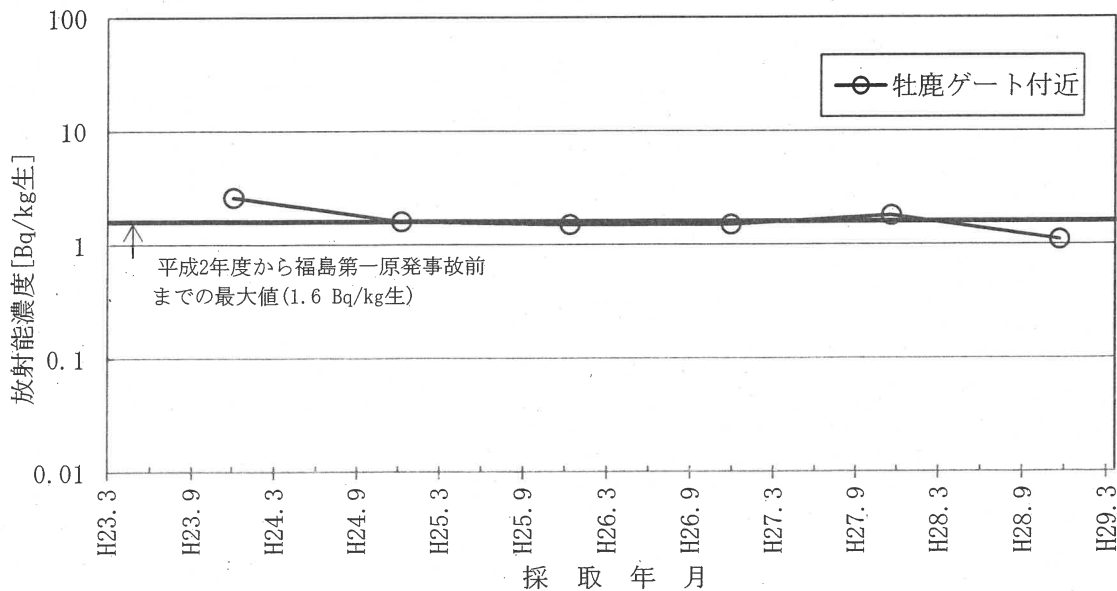


図-22 陸土のSr-90濃度の推移

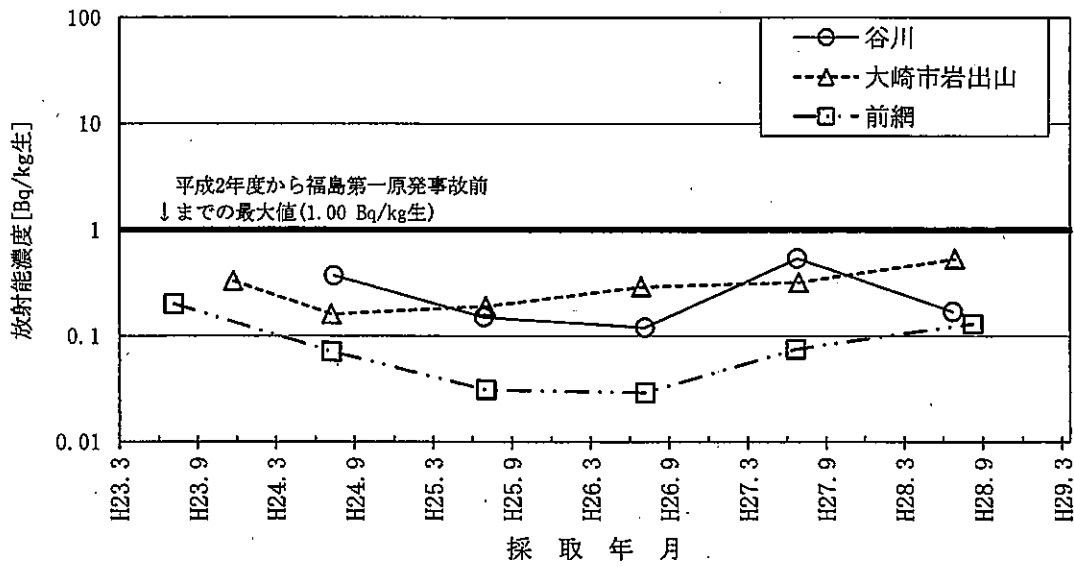


図-23 ヨモギのSr-90濃度の推移

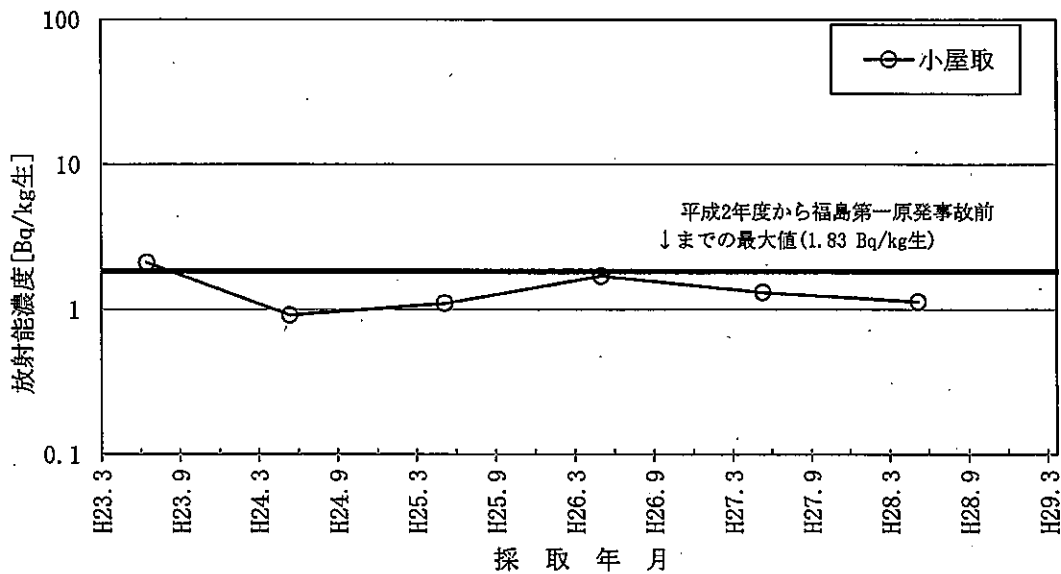


図-24 松葉のSr-90濃度の推移

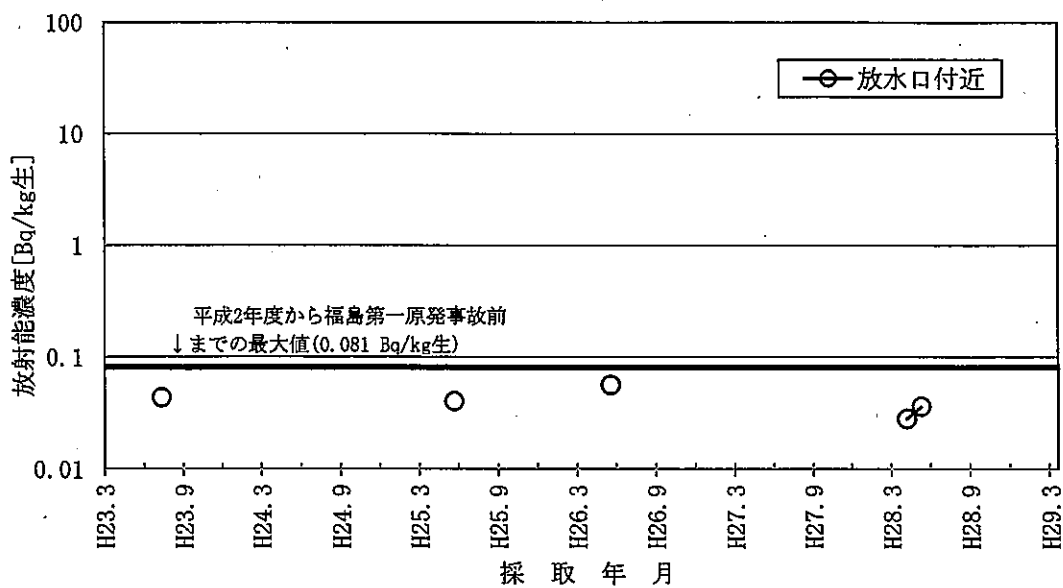


図-25 ワカメのSr-90濃度の推移

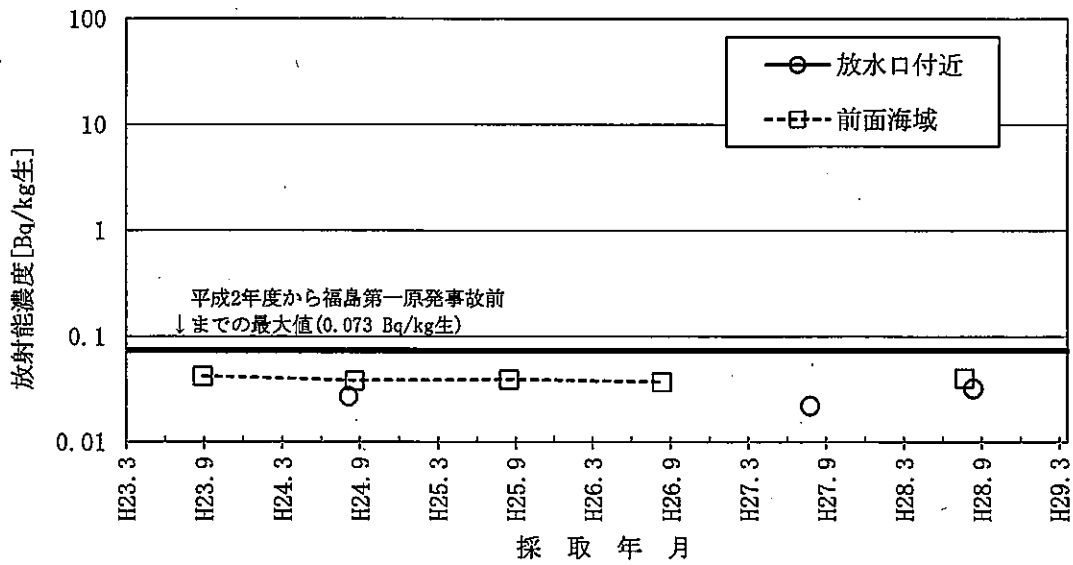


図-26 アラメのSr-90濃度の推移

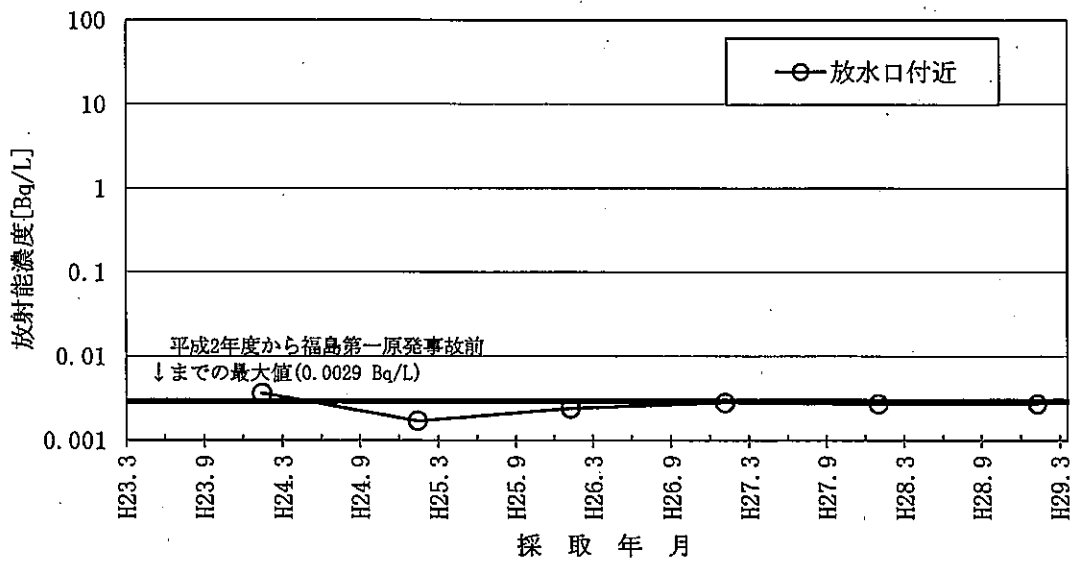


図-27 海水のSr-90濃度の推移

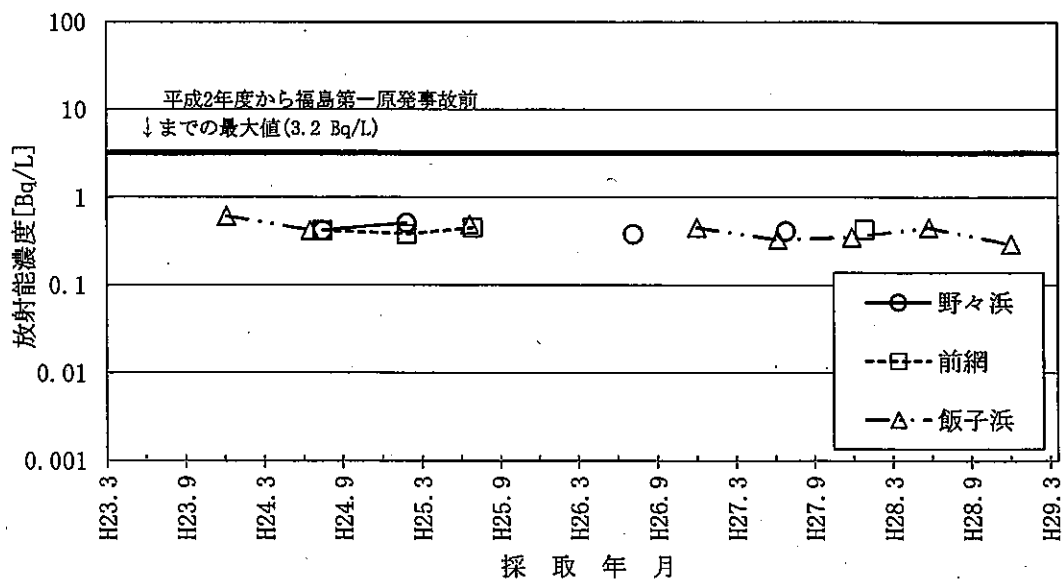


図-28 陸水のH-3濃度の推移

表—6

空間ガンマ線積算線量測定結果

調査機関	平成28年度測定値					前年度までの年間積算値*1 最小値～最大値(参考)
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間積算値	(上段) S57年度～H21年度 (下段) H22年度～H27年度*2
宮城県	0.14 ～ 0.20	0.14 ～ 0.20	0.13 ～ 0.20	0.13 ～ 0.19	0.55 ～ 0.80	0.43 ～ 0.78 0.56 ～ 0.85
東北電力	0.13 ～ 0.21	0.14 ～ 0.21	0.13 ～ 0.21	0.12 ～ 0.21	0.53 ～ 0.85	0.50 ～ 0.85 0.53 ～ 1.31
単位	mGy/90日				mGy/365日	

(注) 一部の地点では、震災の影響により従来の測定地点付近において測定した。

*1 福島第一原発事故の前後に分けて過去の測定値の範囲を表示した。なお、測定地点を移動した大谷川、桃浦及び横浦の移動前データと震災の影響により参考値扱いとしたデータは含まない。

*2 宮城県分の平成22年度～平成23年度は震災の影響により欠測となった。

表—7

移動観測車による空間ガンマ線線量率測定結果

調査機関	平成28年度測定値				前年度までの測定値*1 最小値～最大値(参考)
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	(上段) S60年度～H22年度 (下段) H23年度～H27年度*2
宮城県	H28.5.19	H28.9.9	H28.11.29	H29.2.17	20.0 ～ 61.8
	31.5 ～ 78.1	30.6 ～ 78.4	31.0 ～ 80.8	29.1 ～ 72.8	34.9 ～ 133.0
東北電力	H28.5.20	H28.8.26	H28.11.16	H29.2.15	20.0 ～ 59.2
	35.2 ～ 61.8	34.6 ～ 60.6	34.7 ～ 61.3	35.3 ～ 61.3	28.1 ～ 123.3
単位	nGy/h				

(注) 一部の地点では、震災の影響により、従来の測定地点付近において測定した。

*1 測定地点を固定した昭和60年度からの測定値の範囲を福島第一原発事故の前後に分けて表示した。

*2 宮城県分の平成22年度第4四半期～平成23年度第4四半期は、震災の影響により欠測となった。

(3) 実効線量の評価

女川原子力発電所環境放射能測定基本計画及び同実施計画に基づく環境モニタリングの結果、女川原子力発電所の運転状況及び放射性廃棄物の管理状況から判断して、同発電所に起因する周辺住民の被ばくは認められなかったことから実効線量の推定は省略した。